

イエスは 主なり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 110



四國の地で アシュラムに導かれて

ヨハネ14:23

唐渡 弘

「私を愛する人は私の言葉を守る。私の父はその人を愛され、父と私とはその人の所に行き、一緒に住む。私を愛さない者は、私の言葉を守らない。」

四國の地でアシュラムに参加するよう導かれたのは、松山でこの働きを進めておられた宇都宮充先生のおすすめによるものでした。あれから早や三十年近く過ぎました。私は熱心な参加者ではありませんでしたが、二年ほど前、松山山越教会牧師の河野修先生より、「四國のアシュラムの働きを、引き継いで行って下さるように」とのおすすめををいただいて、今日に至りました。

私が学んだ聖書神学校で強調されていたことは「聖書を読むことと祈ること」でした。その学び舎の先輩であると共に義父となったU牧師は「唐渡さん、神さまと調和のある生活を常に心がけて下さい」とすすめてくれましたが、それは私への遺言となりました。

また、訪問伝道（現在、こころの友伝道）のS牧師は「牧師も信徒も、伝道を継続して行うには、アシュラムがなくてはできません」と語りましたが、心からのうなづきをもって、この言葉を思い起こします。

私にとって、四國の地の主にある全教会が祝福されることは、切なる願いです。この四國の地で福音宣教が力強く進むために、アシュラムの働きが盛んになるようお祈りをお願いします。

「神に仕えることはつまらない」という不信仰なマラキの時代に「そのとき、主を恐れる者は互いに語った。主は耳を傾けてこれを聞かれた。」「しかし、わが名を恐れるあなたがたには、義の太陽がのほり、その翼には、いやす力を備えている。あなたがたは牛舎から出る子牛のように外に出て、とびはねる」（マラキ書三章十四節～二十節）のみ言葉のように、四國の地で、全員で、主のみわざが進むよう祈ります。

（四國アシュラム委員・高松田村町教会牧師）



スタンレー
ジョーンズ
コーナー

説教者・アシュラム創始者ジョーンズの生涯
(9) J・M・ジョーンズ

〔祈りは聴かれ答えられた〕

にもかかわらず、我々のすべき幾つかのことがありました。私が祈った時、次の反省が起こりました。「あなたは自分ができていることをすべてし尽す前に奇跡を求めているのか」。これはその通であったことを認めなければなりません。

たとえば、スタンレー兄弟の左の手足は目に見えて委縮して縮んでいました。それでも我々はマツサージさえまだ試みていませんでした。印度人はほとんど生まれながらのマツサージ師で、非常にしなやかな指をもっています。私は聖徒らしい八十代の印度人のルルー姉妹を思いつきました。次の朝私は彼女にスタンレー兄弟にマツサージをして呉れないかと尋ねました。彼女は答えました。「あなたが私に求めることは決してあるまいと思っていました。」彼女は続けました。彼女は故サロジニ・ナイ

ドゥを事故の後、マツサージをして元気にしてあげたと。

詩人、愛国者、雄弁家、ガンダーの友、印度の人口の多い北部の州、ウター・プラデッシュの初代の総督、であるナイドゥ夫人は言ったことがありません。「ルルー、あなたは手に電気をもっています」と。彼女は実際上手で熱心な治療師でした。

彼女の働きはもはや漕ぐ力を失った膝関節を強めるように見えました。

それから彼の左足は内側に曲って右足が左足につまづくようになりました。私は使われていない荒削りの梁が横たわっているのに気付いていました。村の大工が、一種の通路を設けようとして、何本かの梁の片面を平らにしました。もう一つの問題が除かれました。

それからジョーンズ博士はその視力に欠陥があるために通路が二重に見えるのと文句を言いました。そこで我々は片眼に眼帯をかけたのでその困難が除かれました。後に、この処置は医師が命じたであろうと思われる通りであることを知りました。

それから、回復するためには或種のリズムと平衡が必要だと気付きました。「左足」、「杖」、「杖」、「杖」、「杖」というように、我々は拍子をとりました。二日目に彼は言いました。「数えないで。自分で数えいる」

と。

歩行に就て反省すると、すべての歩行は信仰の事柄であることがはっきりしました。すべての四足の動物は二つの足だけでは歩けないことを知っています。人は信仰によってだけ歩けるのです。ちょっと、初めて歩こうとする子供を見て下さい。スタンレー兄弟に、「ナザレのイエス・キリストの名によって立って歩きなさい」と我々が言おうとするのは単なる有難いおきまり文句ではありません。

何週間後に、或著名な物理学者がこの話を或種の魅力を感じてきました。生理学にも興味をもって、いる彼は身体がどのように学習するかを永く探求していました。彼は「自転車の乗り方」に就て、これまでに論文を書いた者がいない。それは身体がどのように学ぶのか誰も正確に知らないからだと述べています。彼は身体は本当に信仰によって学ぶという事に同意しました。

我々は彼を突き離すことにしました。ずっと前、彼の娘と私が結婚した時彼は私に告げました。「私は君たちの邪魔を決してしたくないが、君たちが私を必要とする時には離れていようとはしない」と。今度はこの言葉を彼に返すことができました。「離しますよ！しかし、彼が倒れそ

うになる場合には我々はその間に居ます。」始め立つことは彼にはひどい苦しみを与え、困難でした。毎日に彼は自分の車椅子からずつと楽に立ち上れるようになりました。彼は自分の杖に支えられて、独りで歩き始めました。一週間後、彼はその通路の長さを往復して歩くことができました。不可能なことが起り始めました。

他にも我々の心を安じたことがありました。座っていると彼の脈拍は普通七二でした。彼が立ち上って歩こうとすると、脈拍は一二五まで跳上りました。顔は紅潮し、息が早くなり、心臓発作の恐れがありました。しかし連続祈禱の後の日は、座っていると脈は正常で、運動後は九〇に上りました。次の日は八〇、三百目はただの七八でした。(百川訳)

アシュラム生活最良の友 アパ・ルーム

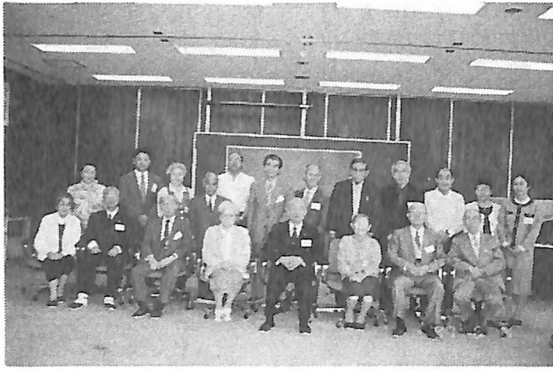
海老沢 宣道 編集

(年6回刊行の日々の糧)

国際的、超教派的、靈的な読物
価300円、〒90円、年2,340円(〒共)

申込先 ☎256 小田原市国府津3-11
振替口座 00110-7-193834 アパ・ルーム
電話番号 0465-48-2010

日本語版は創刊以来46年続行中



第五回セミナー

▼第五回セミナーの報告

第五回アシュラム・セミナーは六月三日、四日の両日、箱根山崎製パン山荘で催され三〇名が参加した。発題者は西南女学院大教授、鍋倉勲師。一九七一年、世界的伝道者スタンレー・ジョーンズ師の第一〇回目にして最後となった全国巡回伝道に際して、九州・四国方面の諸集会のための通訳者として奉仕された経験から、スタンレー師の宣教師またアシュラム、訪問伝道、祈祷細胞等の紹介者・普及者としての広範な活動とその深遠な信仰・思想の数々を枚挙され、参加者一同は多大の感銘を受けた。会議室から霧の彼方に雪を載いた富士山の山頂を一瞬見る事ができたのは幸いであった。

☆セミナーに出席して☆

▽横浜・青葉区 渡辺 子

ご高齢の方が多い事に感銘と励ましと希望を与えられました。活ける主の生き証人だと思えます。静かな集会で良かったが、二十代の若者は皆無でした。説教がないのが良いよ
うな、物足りないような中途半端な
気持でした。聖書の黙読も良いでしょ
うが、輪読してみ言葉の力を耳で聞く
又全く違うみ言葉の力を輪の中で、
一人一人が経験できると思っています。
その前か後で黙読すれば尚良いと思
うのですが、スタンレー・ジョーンズ
という方は偉大であったことを知り
ました。その著書を読みたいとい
う気持ちまでは湧いてきませんで
した。予定が詰まり過ぎていて、余裕
がなく温泉に入れなくて残念でした。
人数が余り多くなくて大変良かった。
アシュラムにはあれ位が、あの場所
の限界でしょう。お食事が大変気が
利いていておいく、主婦には霊の糧
と共に嬉しいでした。友を誘って又
参加したいと思えます。感謝。

▽横浜・青葉区 渡辺興吉

初めての参加でした。静聴はみ言
葉に耳を傾ける時でよかったです。後半
感じたことを皆が話すよりも、示さ
れたことに就て神に話す、祈る方が
よかったですと感じました。高齢の先
輩のカクシヤクたる姿に敬服。

▽関東アシュラムの予告

○一九九七年九月二十二日(月)～二十四日(水)
○箱根山崎製パン山荘
○主 題 「キリストのためにどんな
ことでもする」ピリピ二・二

○助言者 齊藤剛毅師(福岡女学院
大学人文学教授 牧師)

○会 費 一八、〇〇〇円

○申込先 連盟事務所 大石嗣郎
☎〇三三三七二一五七五八

▽32回九州アシュラム予定

・一九九七年九月十五日(休)～十六日
・福岡女学院八木山研修所で。
・助言者 今村幸文師(バプ連盟・高松
常磐教会牧師)

▽関西アシュラムの予定

一九九七年十月九日～十日(休)
大津市国際交流セミナー・ハウス
皇子が丘荘にて。(予定)

◎会報への寄稿のお願い

連盟は各地区のアシュラムとの連
絡のため会報を年六回発行していま
す。今後の課題は、この会報をアシュ
ラム祈祷運動の促進にいかに関与つ
ものとして行けるかということです。
その一端として、各地区の個人及
び諸教会におけるアシュラム祈祷生
活実践のニュースを載せたいと願
います。連盟事務所にお送り下さい。

編集係

アシュラム連盟通常会計決算報告

(1996年6/6-97/5)

収入の部	支出の部
前期繰越金 60,052	総務役員会(4回分) 149,920
地区分担金 232,000	臨時全国理事会 214,000
(岡山、九州、関東、城北、パルナ、函館栄光)	アシュラム会報代 399,223
賛助金(18口) 279,780	(104号～109号)
本年度不足額 286,094	地区強化費 10,500
	広告費 57,500
	雑費 26,783
収入合計 ¥857,926	合 計 857,926

1996年度 書籍販売決算報告

収入の部	支出の部
販売高 218,610	出版支払分 33,000
内訳	雑費 10,350
アシュラム聖歌集 32,000	
いかに祈るか 71,100	
インド途上のキリスト 115,510	
他593冊	期末残高 175,260
収入合計 ¥218,610	支出合計 ¥218,610

賛助金納付者(順不同、敬称略) 山岸英一 吉本美枝 永田直子(2口) 河野修 石神勇 白川郷二 古河治
淵江淳一 土山牧美 海老沢宣道 飯島康江 中川博 石谷類造 大石嗣郎 増井裕江 木部安来 長井外美子
会計 大石嗣郎、飯島康江



第10回バルナバ・アシュラム

▽第十回バルナバ・アシュラム報告

バルナバ・アシュラムも、今年第十回を迎え、記念大会として、去る五月四日～六日まで、日野市のラサール研修所で、リバイバリスト代表として、有賀喜一師を助言者として開催した。

今年の五月は飛び石連休で、六日は平日で休めない方など、期待した人数に達しなかったが、ヘブル書を中心とした、イエスを仰ぎ見て、信仰に励むべき事を、五回に亘って講義を頂き、一同大いに恵まれました。最終回は、出席された牧師先生方により、接手の祈りを受けて、聖霊に満たされて散会しました。

(石神)

★アシュラムに参加して★

▼三田市武庫が丘・新本力子

静かな良い会場で、よく調えられた食事も感謝でした。敬愛する先生方と同じグループでの学びの時を与えられました。「どんなに忙しくても、女性も聖書を学ぶ時を持つように」とのお言葉を思い出しています。『どこへ行っても、やはり家に帰るとほっとする』と申され、震災後の仮設住宅にお住まいなのに、それに就ては何も口にされなかったのが心に残りました。

傷ついているのを助けた雀が懐いていて、今肩に来て止まり、賛美すると喜んで聞いてくれます。弱さや破れをもち、何年も献金することさえ出来ない者の中にも、常に居て下さる主と共に天国に移されている恵みを味わっています。

▼浦和市・坂井正栄

私は一九七九年初めて、アシュラムに出席し、「アシュラムの目的は真のクリスチャンに変えられること、キリストを信じているが、単に信者というだけで、真の弟子になつていないという反省が出発点である」と教えられました。これこそ私のそれ迄の姿でした。自分の信仰のあいまいさ、いい加減さに気付き、何とか真のクリスチャンになりたいと祈り求めているところに、聖霊のバプテス

ヤを受けなければ真のクリスチャンとは言えないと教えられ、アシュラムに出席して恵みに与かろうと、今に至っています。そして回を重ねる中にアシュラムが大好きになり、自分の成長のために大切な場となりました。恵みあふれる中で、特に恵まれる時は、夜の連鎖祈禱です。夜九時から翌朝まで、一室で祈りが続けられ、神の臨在の中、すべてを投げ出して祈るとき、心は平安となり、主の恵みの確伝と力強い希望を載きます。そして心から「イエスは主である」とみ名を崇めるようになります。

《わたしと共に、成長せよ、最善のものはまだこれからである》ブラウニングの詩。

▼東京練馬区・市川房枝

アシュラムに参加して、主にある皆様との出会いとお交わりの時をもち、三日間の祈りの中に自分を置いて主のみ言葉と向き合うことが出来たことは、言葉にならない恵みでした。主イエス様は私の命であるということをなお一そう強く心に留めて箱根の山を下りました。初めから終わりまでが恵みでした。感謝。

▼西宮市・林 隆子

祈ることの出来ない私にはとても不安でしたが、会場に入り礼拝をした途端に心が落ちつきました。開心・静聴・充滿・献身・奉仕と忙しい日程でしたが、とても素晴らしい集り

で感謝しました。自分を主イエスに明け渡し、主に委ねる時、始めて力が与えられる。それは私共のしたことではなく、私共を通して主がなされたことを学ばせて戴きました。神のみ前に平伏するとき、人間存在の小ささが分りました。日々の生涯の中でごう慢にならず、常にへり下つてみ言葉に聞き祈り、苦しい時も楽しい時も、主と共に歩む者になりたいと願っています。マタイ四・四

※〇四年の恵み

アシュラムの歩みは都合により今回は休みます。編集係

海老沢宣道の新書 神に就いての黙想

B6判、150頁、価1,300円 円240円

神との生きた対話・交わりを願いつつ綴られた信仰の随想。老熟した著者が現代の教会に問題提起しつつ語りかけるメッセージ。

発売所 キリスト新聞社
取次 日本クリスチャン・アシュラム連盟

東京都目黒区中央町1-21-10
日本クリスチャン・アシュラム連盟
事務局 東京〇二〇〇一四五六番

理事長 海老沢宣道
編集人 白石 嗣郎
発行人 大石 嗣郎
定価 一部60円 円80円